伊豆沼・内沼 サンクチュアリセンターニュース

Sanctuary Center News

「わぁ伊豆沼って大きいなあ！あ、鳥みつけた！」展望フロアから沼を眺めるのは、授業で見学に来られた若柳小学校3年生の皆さん。沼にすむ生き物やマガンの暮らしについて学んでいただきました。

Vol.97
平成30年７月号

国後島で鳥類調査

ビザなし墓参訪問団とともに６月１～４日にかけて6名の鳥類専門家グループにガンカモ専門家として参画し、国後島で鳥類調査を行いました。国後島中央部のオホーツク海側と太平洋側沿岸を踏査した他、保護区の方々と意見交換をしました。現在、日本国内で増加しているシジュウカラガンは今年初めて国後島で記録されたとのことで、調査中も観察することができました。人工構造物のない、手つかずの自然に感銘を受けました。

↓幸運なことに出会えたシジュウカラガン

護岸堤防のない河口部

バス・バスターズがテレビで紹介

収録風景　カラスガイの大きさに驚く舟倉さん

バス・バスターズの活動（ボランティアによるブラックバス駆除）がKHB東日本放送のテレビ番組「夕方LIVE！キニナル」で6月6日に放映されました。レポーターの舟倉薫さんが、外来魚を狙って稚魚すくいをしたり、大きなカラスガイにびっくりしたりと、駆除活動をしながら楽しく沼の自然を紹介いただきました。外来魚の多さよりも在来生物の回復が目立ってきた伊豆沼・内沼。番組を通じ、駆除活動によって戻ってきた色々な生き物たちの姿が伝わったのであれば幸いです。

― 手賀沼でハス刈りロボットボートデビュー

東京大学の海津裕先生と共同で開発しているハス刈りロボットボートによるハス刈りが千葉県手賀沼で６月１４日に実施されました。手賀沼では伊豆沼と同様にハスの拡大が懸念されているため『美しい手賀沼を愛する市民の連合会』の主催で試験的に実施されたものです。ロボットボートは順調にハスを刈り、20×10mの刈り払いを短時間にしっかりと行いました。

順調に刈り払うハス刈りロボットボート

― 第1回水辺の生き物採集と観察会を開催

捕まえたエビをじっくり観察

カラスガイを手にして大きさを実感

湿った気候が大好きな伊豆沼の水辺の生き物は、梅雨入りして生命感が溢れています。6月16日に伊豆沼の水辺で生き物を採集して観察する自然体験講座を開きました。参加した6組15人の親子がタモ網で植物園の池の中をすくう度に小エビやヤゴがたくさん採れました。また、伊豆沼に設置した定置網の中からブラックバスなどの外来種を探しました。例年よりも外来種の数が少なく、その代わりにテナガエビやスジエビ、モツゴなどの小魚がたくさん採れました。これまでの外来種駆除の効果なのかもしれません。参加した皆様は、小魚や手のひらより大きなテナガエビ、30cm近いカラス貝などを手に取りじっくり観察しました。

羽化して間もない
アオヤンマ

― 伊豆沼・内沼生き物図鑑

初夏の伊豆沼には、様々なトンボが出現します。沼のそばの湿原で、足元から大きなトンボが飛び立ち、近くの草むらに止まりました。全身が黄緑色で腹部のくびれがない姿が特徴の『アオヤンマ』です。アオヤンマは、背丈の高いヨシが茂る池沼に住むことが知られています。今回、発見した湿原には、一面に背丈の低いスゲが茂り、背丈の低いヨシがまばらに生えているだけです。水位は地面スレスレで、一見ヤゴの住む環境には見えません。羽化して間もないようで、抜け殻が残っていたため、この湿原に繁殖していることは明らかです。同じ場所では3匹が確認できました。アオヤンマは数を減らし、神奈川県では絶滅したようです。減少の原因を解明し、速やかに保全する必要があります。

アオヤンマの羽化殻

〒989-5504 宮城県栗原市若柳字上畑岡敷味17-2
宮城県伊豆沼・内沼サンクチュアリセンター
指定管理者　(公財)宮城県伊豆沼・内沼環境保全財団
Tel0228-33-2216 Fax0228-33-2217
ホームページ:http://izunuma.org/
E-mail:izunuma@circus.ocn.ne.jp